

HEART NEWS

大阪市立総合医療センター循環器センター

Vol. 11



12月18日、ハイブリッド手術室において成人では当院1例目となる経皮経管大動脈弁形成術を循環器内科と心臓血管外科、麻酔科、コメディカルの共同チームで施行しました。

旧年中は大変お世話になりました。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

今回のテーマは、前回に引き続き「超高齢者の循環器医療」についての報告です。超高齢者医療の治療のキーワードは、「低侵襲」と「併存疾患対策」です。

本年も診療科、コメディカルの垣根を越えた当院自慢の総合力で、超高齢者医療に積極的に取り組んでいきたいと思っております。

循環器センター部長

循環器内科部長 成子 隆彦

昨年は心臓大血管症例が216例と、例年通り200例以上の開心術を施行することができました。また、昨年4月より、ハイブリッド手術室を移動させ、胸部大動脈瘤に対するステント挿入は23例、腹部大動脈瘤に対するステント挿入は46例と例年より多くのステント挿入術を施行することが出来ました。

本年も緊急・待機を問わず、多数の症例を受け入れていきたいと思っておりますので、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

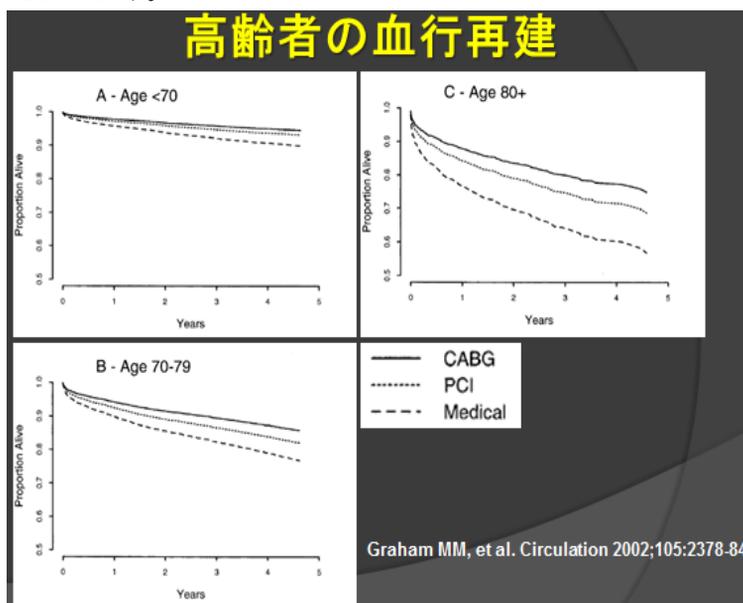
心臓血管外科部長 佐々木 康之

超高齢者の心臓カテーテル治療

循環器内科 吉山 智貴

2013年の時点で、我が国の高齢者人口(65歳以上)は3186万人で過去最多となり、総人口に占める割合は25.0%で過去最高となりました。日本人の死因の内訳は、悪性新生物によるものが29.5%で最も多いですが、次に多いのが心疾患の15.8%です。その心疾患の実に約半分を虚血性心疾患が占めています。高齢者の虚血性心疾患に対する侵襲的治療に対するエビデンスとして、TIMI Trialがあります。75歳以上かつCCSⅡ度以上の狭心症に対する血行再建術(PCI、CABG)と薬物加療の比較が行われており、QOL、1年間の死亡率、心筋梗塞の発症率では有意差がなく、狭心症による再入院と主要心血管イベントは血行再建術によって有意に減少したと報告されています。一方、心筋梗塞を含めた虚血性心疾患において、PCIとCABG、薬物療法について、その後4年間の生存率を比較した検討では、高齢者ほど血行再建により生存率が上昇したという報告もあります(Graham MM, et al. Circulation 2002;105:2378-84.)。

安定狭心症で至適な薬物療法を行い、症状がなければ、高度な認知症を有する患者やADLの低い患者では、侵襲的治療は必ずしも必要ではないと言えます。しかし急性心筋梗塞や不安定狭心症といった急性冠症候群の場合は、仮に超高齢者であっても侵襲的治療により、大きな利益を受けることが臨床試験でも示されており、年齢だけを理由に治療の幅を狭めてしまう必要はないと考えます。患者ごとにリスク、QOL、余命を勘案して、それぞれの患者のADLや患者・家族の希望に応じた最も望ましい治療法を選択していくことが重要だと考えます。



循環器内科外来担当医のご案内

	月	火	水	木	金
午前	阿部	小松	占野	柚木	成子
午後	阿部	小松	中川	柚木	成子
	中川(ペースメーカー)		古川(2,4,5週)		

地域初診外来

	月	火	水	木	金
午前	成子			成子	阿部
午後			占野(不整脈)		

診察予約(地域医療連絡室)

TEL:06-6929-3643 FAX:06-6929-0886

平日 8:45~20:00

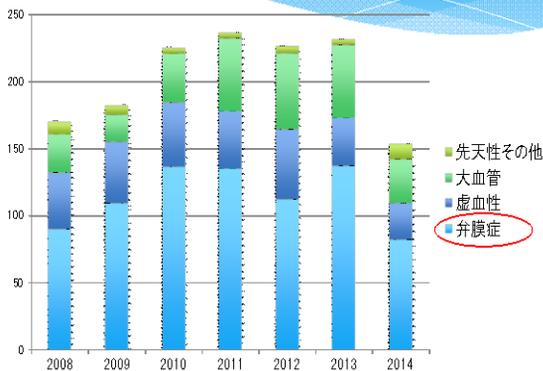
土曜日 8:45~13:00

超高齢者の大動脈弁手術

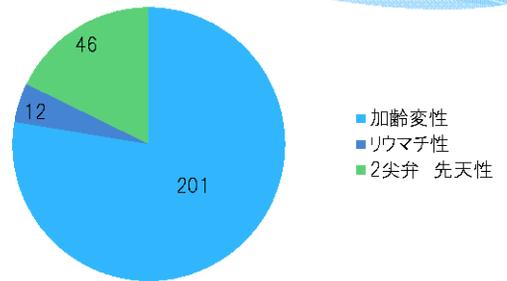
心臓血管外科 尾藤 康行

本邦における心臓弁膜症手術件数は右肩上がりに増加しておりますが、当科におきましても年間の心大血管手術総数の半分以上を弁膜症手術が占めている状況です。当科における弁膜症手術例の約半数が大動脈弁疾患であり、その中でも特に多いのが加齢変性による大動脈弁狭窄症です。80歳以上の超高齢患者が約3割を占める疾患ですが、これら高齢患者に対しても積極的に手術を行っております。当科では標準的な大動脈弁置換術に加え、小切開で行う低侵襲手術や、人工弁を用いない自己心膜による弁再建術を取り入れ、これらの術式を患者毎に適切に選択することで、高齢患者においても若年患者とほぼ同等の手術成績を収めております。今後も弁膜症疾患の患者への最適な治療方法の提供を目指してまいります。

大阪市立総合医療センター 手術件数 (2008年1月～2014年8月)



大動脈弁狭窄症 病因 (n=259)



病因別平均年齢

加齢変性	75歳
リウマチ性・2弁性	64歳

心臓血管外科外来担当医のご案内

	月	火	水	木	金
午前	交代制	佐々木	高橋	佐々木	尾藤
午後	交代制	佐々木	高橋(1,3週)	佐々木	尾藤

診察予約(地域医療連絡室)

TEL:06-6929-3643 FAX:06-6929-0886

平日 8:45～20:00

土曜日 8:45～13:00

今号の循環器センター日記

大阪市立総合医療センター循環器センターでは、臨床、教育そして研究を加えたこれら3つがバランス良く揃うことを目標にしています。

11月にシカゴで開催された米国心臓協会(American Heart Association、AHA)の年次学術集会において吉山智貴医師が、「大動脈弁狭窄症における酸化LDL受容体-1の発現と血漿中濃度について」「心血管イベント予測因子としてのネオプテリン、MRP、高感度CRPの臨床的意義」「薬剤溶出性ステント留置後の心血管イベントと血清パラオキシナーゼ1の関連について」の3演題を発表してまいりました。

さて、吉山医師は公私ともに大活躍です。センター内の私事で誠に恐縮ですが、11月3日にめでたく結婚いたしました。披露宴にて、新婦さんのお色直しの隙(?)に高砂でとった循環器内科の集合写真がとっても微笑ましく、思わず掲載してしまいました。吉山先生本当におめでとうございます。



当院循環器内科、心臓血管外科は近隣の先生方からの循環器救急疾患をさらに迅速に受けられることができるようにするため、循環器センター直通電話（ハートライン）を設置しております。

**ハートライン（循環器センター直通電話）
06-7662-7979**

その他の場合は御面倒ですが、06-6929-1221（代表）から呼び出して下さい。